

○事業の背景・本市は、秋田県北部の奥羽山脈と出羽丘陵に挟まれた米代川上流域に位置し、総面積91,370haのうち70,156ha(77%)が森林で、秋田杉の主要な産地である。杉人工林は、若齢林(35年生以下)が45%を占めるため、良質材の生産に向けた間伐等の施業が最も重要な時期に来ている。

平成21年度に「大館市バイオマスタウン構想」を策定し、未利用バイオマスの利活用として、木質バイオマスのエネルギー化を構想の基本と位置づけた。具体的な取り組みとして、間伐等で発生する林地残材を原料にペレット燃料化を推進している。また、ハード面では、平成20年度から23年度までに、チップボイラー1基、ペレットボイラー4基、ペレットストーブ110台を導入した。今年度は更にペレットボイラー1台を導入する予定にしている。

○事業の目的・森林面積が市全体の77%を占めるため、森林資源に恵まれているものの、近年の木材価格の低迷や森林所有者の高齢化などにより、林業を取り巻く環境は大変厳しいものになっている。J-VER制度に取り組むことによって間伐等が促進され、また、クレジット収益を活用することにより、森林の健全な育成や持続的な森林経営のほか、新規雇用の創出も期待できる。

○温室効果ガス吸収活動の方法等・森林施業計画をもとに市有林2,899haのうち杉人工林等341haについて、20~30%の適切な間伐等を計画的に実施し、CO2吸収量の維持・増加に努めます。間伐後に発生した林地残材はペレット燃料化し、市の公共施設のペレットボイラーやストーブに利用します。

プロジェクトの実施場所	秋田県大館市
吸収量(予測)	2012年 2,582 t-CO2
在庫量	2,044 t-CO2 (2012年6月時点)
クレジットの次回発行予定	2013年2月
1t-CO2あたりの希望単価	¥10,000 ~ ¥12,000

本プロジェクトは、秋田杉人工林を間伐等の施業することによってCO2吸収量の維持・増進を図るものである。発行されたクレジットは、企業活動によるCO2排出削減のオフセットに活用することで、CSR、企業のイメージアップに役立てることができる。また、本市は、天然秋田杉で作る伝統工芸品「曲げわっぱ」発祥の地であり、「忠犬八子公の故郷」、「きりたんぼ」、「比内地鶏の産地」としても有名です。これらの固有の資源を表示した様々な製品のカーボンオフセットに貢献できると考えています。

本プロジェクトのクレジットを購入いただくと、秋田杉をより身近なものとして体験していただくため、「大館樹海ドーム見学(樹齢60年生以上の地元産秋田杉を約25,000本を使用した、世界最大級の木造ドーム)」、「樹齢300年以上天然秋田杉森林浴体験」、「曲げわっぱ手作り体験」、「比内地鶏で作る本場大館きりたんぼ鍋づくり体験(きりたんぼ作りの串は秋田杉です)」など、秋田杉体験プランとして様々なメニューを活用できます。

地元秋田スギの利用促進

大館樹海ドーム (世界最大級の木造ドーム) 内部：秋田杉集成材

上川沿小学校
集成材の柱と曲げわっぱのシャンデリア

間伐事業で発生する木質バイオマスの利活用

市有林 間伐材の利用

pellets 燃料製造・供給

八子公荘 (忠犬八子公誕生の地区にある温泉) ペレットボイラー導入

公共施設28箇所 ペレットストーブ110台導入

秋田杉体験プラン

大館曲げわっぱ体験工房
パン皿 丸舟当煎
曲げわっぱ手作り体験

きりたんぼ作り体験

樹齢300年以上天然秋田杉森林浴体験

■担当者連絡先
大館市 黒田 一志 TEL:0186-43-7133
E-MAIL: kazushi-kurota@city.odate.lg.jp